

令和7（2025）年度第2回宇都宮地域医療構想調整会議

令和7（2025）年度第2回宇都宮地域医療構想区域病院及び有床診療所等会議 議事録

1 日 時：令和7（2025）年12月23日（火）18時30分から20時00分

2 場 所：栃木県庁本館6階大会議室1、オンライン（zoom）

3 出席者：宇都宮地域医療構想調整会議委員

宇都宮地域医療構想区域病院及び有床診療所等会議構成医療機関

事務局（栃木県医療政策課、宇都宮市保健所）

4 議 事：

議題（1）地域医療構想の進め方について【資料1】

（事務局：医療政策課） 資料1に基づき説明。

《質問、意見等 特になし》

議題（2）宇都宮構想区域対応方針に基づく取組について【資料2－1、2－2、3】

（事務局：医療政策課） 資料2－1、2－2、3に基づき説明。

《質問、意見等 特になし》

議題（3）かかりつけ医機能報告制度について【資料4】

（事務局：医療政策課） 資料4に基づき説明。

《質問、意見等 特になし》

議題（4）県立病院のあり方検討有識者会議の検討状況について【資料5】

（事務局：医療政策課） 資料5に基づき説明。

<県立病院の再整備等について>

（松本議長）

- ・現在、県立病院の再整備に向けて、有識者会議での議論が進められており、私も委員の一人として会議に参加している。県立病院をどのように再整備していくのかは、宇都宮医療圏の地域医療提供体制にも大きく関わってくる話となるので、本日の議題とさせていただいている。
- ・なお、先週の会議では、資料5の最後のページにあるとおり、県立病院について、県立病院以外の病院との統合による総合病院化が現実的ではないかとの意見がほとんどを占め、また、統合の相手方としては、NHO 栃木医療センターとの統合が望ましいのではないかという具体的な意見も挙がった状況であった。その辺りを踏まえて、皆さまから御意見をいただきたい。

（NHO 宇都宮病院 杉山委員）

- ・県立病院に関しては、まず、精神科の岡本台病院については、特殊な医療観察法医療があるため、独立した病院として継続すべきと思う。
- ・次に、リハセンターについては、まだ新しい建物であるので、現時点での統合には向かないというところがある。

- ・もし、県立病院同士で統合するのであれば、リハセンターのある健康の森に新しい病院をつくるというのはあると思うが、公立病院と公的病院で統合するのであれば、個人的には、県立病院と栃木医療センターというのは望ましいペアかなと思う。
- ・NHOに関しては経営的に厳しくて、当院は16年連続黒字であったが、昨年わずかに赤字となつた。そうすると、設備や医療機器等の更新が相当大変であり、今必死に黒字化を目指して運営している。
- ・そういう意味では、NHO栃木医療センターでは大変苦労していると思う。このため、NHOにあっては、多額の黒字化ができないと、これから医療設備の更新とか建物の更新がとても大変なところがあるので、NHO栃木医療センターは統合してある程度自由にやっていただいた方が良いかなと思う。
- ・黒字化するために、赤字の部分を改善することは、現場の院長ではなかなか難しいところがある。外部要因である患者の減少が一つの原因であるし、人件費を含めた構造的な部分のところも改革が必要であり、それらを現場で実行し解決していくことは大変なところがある。このため、統合の際にその辺のところを一挙に実行していくことによって、必要な医療を持続的に供給できると思っている。
- ・今後様々な角度から、病院経営について検討していくと思うが、新病院を整備する以上は黒字、赤字だとしてもできるだけ最低限に抑えてやっていかなければいけないので、統合することに関しては、個々の医療機能を評価しながら、黒字化を目指す必要がある。
- ・政策医療的なところもやっていかなければいけないが、そういうものについてはどうしても不採算になりやすいところがある。資料5には色々と県立病院の課題が書いてはあるが、それらを全て盛り込むと黒字化はなかなか難しいところもあるので、例えば既存の病院で実施しているものがあれば、そちらにその機能は委託して、黒字化が難しい場合には、委託した医療機関に補助金等を交付して医療機能を確保していくことも重要なと思っている。
- ・当院で言えば、結核病床を栃木県で唯一、備えてはいるが、毎年7,000万円の赤字が発生しており、その分の赤字を他の医療部門の収益で補填して、何とか今まで黒字化を目指してきた。
- ・政策医療のところはしっかりと補助金等を出し、県立病院では必要最低限のことはしっかりと実施していただきながら、他の医療機関と協力して、トータルで医療提供体制が網羅できるというところを進めていただければ良いと考える。
- ・栃木医療センターが統合先の候補に挙がっているが、NHOの経営状況はかなり厳しくて、このままの状況が続くと、7年後にはキャッシュが底をついて破綻の可能性もあるので、その場合は、当院も県立病院の仲間入りをする可能性もあると思つてはいるが、この資料にあるように、がん患者のピークは2040年と言われており、現状からすると相当急ぐところもあるので、がんセンターと栃木医療センターから上手く今後の医療にあった形に置いて、2つのところが統合しながらやっていくのが良いと考える。

(JCHO うつのみや病院 堀江委員)

- ・県立病院の再整備に関しては、がんセンター、リハビリテーション、精神科医療に加えて、やはり県として、しっかりと政策医療ができる体制にしていただくのが良いかと思う。そ

した意味で、県立病院の総合病院化は私も賛成する。

- ・人員の確保については、総合病院化するにあたってそれなりに人員が確保できるというところで、有識者会議で提案された内容で特に異存はない。
- ・当院としては、宇都宮南部の地域医療、特に二次救急、高齢者救急、小児救急を担いながら、今後も地域に貢献することができればと考えていることから、新たに整備される病院が、本院を含めて他の病院の医療圏と重ならないようにお願いしたい。

(済生会宇都宮病院 篠崎委員)

- ・今回の県立病院のあり方に関して、方向性としては、宇都宮地域である程度目的を絞った病院を構想しているとのことであるので、そうした病院ができれば、十分に地域で連携して、当院も協力してやらせていただきたいというのが基本的な考え方である。
- ・当院に対し、地域から行った方が良いというものに関しては、当院においてそちらの方を注力してやりたいと思うし、お互い協力して行うことができるところがあれば、そちらでお願いするようなことも出てくるとは思うが、この地域の中で、それぞれの得意分野を伸ばしながら、医療資源を人的なものも含めて協力し合いながら行っていきたいというのが基本的なスタンスである。
- ・今、検討されているものができる過程の中では、今後の話し合いにおいて、ある程度の役割分担をしつつということにはなると思うが、当院に求められたもの、今も求められているニーズに応えて行っていきたいと思うし、連携をしながらお互いに話し合ってやっていかせていただければというのが基本的な方針である。

(NHO 栃木医療センター 石原委員)

- ・この度、県立病院の統合先の1つの候補として御推薦をいただいた形となっている。
- ・このことについては、私1人で決めることができる問題ではないので、栃木県、当院が所属する国立病院機構本部、そして、当院との間で話をした上で、統合の可否を決定していきたいと思う。
- ・県立病院がどうあるべきかという話から、今回の統合の話が出てきているが、当院が具体的に、どのような話し合いをしたいかと言うと、県立病院や当院の老朽化が進行していることによる様々な機能の問題などではなく、10年後20年後の人口動態であるとか、疾病動態、医療需要とか医療資源、人材確保の問題やその動態などを考えた上で、本当に統合することでスケールメリット、シナジー効果が得られるような総合病院がつくれるのかどうか、言い方を悪くすれば県立病院のための統合ではなくて県民のための統合ができるかどうか、そういう検討をしていきたいと思う。
- ・そのためには、新たな病院に必要なものは盛り込まなければいけないし、必要でないものは省いていかなければならない、こうした作業ができるかどうかということを考えた上で、統合を検討したい。
- ・また、当院は約600人の職員を抱えている。それぞれ統合する県立病院多くの職員を抱えている。今、頑張って地域医療に従事している職員なので、職員に大きな不利益が被らないような形に整えられるかどうか、これも統合の提案に乗れるか乗れないかということで大きな議題の1つになる。その辺りを考慮した上で、返事を考えていきたいと思う。

(栃木県立がんセンター 尾澤委員)

- ・県立3病院のうち、特にがんセンターと岡本台病院は老朽化がかなり進行していて、がんセンターでは毎日、何かしら不具合が生じている。水回り等の配管系が壊れやすく、修繕にも多額の費用が生じるが、修繕しないと診療に影響が生じてしまう。岡本台病院とがんセンターはなるべく早く再整備をしないと困ってしまう状況がある。このため、がんセンター等の県立病院の再整備をどのように進めて行くかの議論は、院内に限らず県とも行ってきたところである。
- ・その中で、見えてきた方向性が総合診療機能を備える必要があるということ。しかし、現実問題として、今、がんセンターは専門病院であり、がんの専門医しか在籍していないため、総合診療機能を備えることは簡単にはできないという状況がある。
- ・例えば、少なくとも総合内科の先生がいないと総合診療機能を備えられないが、専門病院では、総合内科の先生をリクルートしようとしても全然集まらない。そのような流れがある中で、本当にがんセンターだけで総合診療機能を備えることができるのだろうかというところが非常に問題になってくる。
- ・そのような状況を踏まえると、がんセンター、岡本台病院もそうであるが、県立病院だけでの総合病院化は困難であるので、公的病院との統合を模索しないといけないかと考えていたところ、ちょうど有識者会議においても公的病院との統合の話が出てきたところである。
- ・また、がん診療は患者さんが高齢化しており、特に85歳以上の高齢者が増加しているが、そのような高齢の患者さんについては、将来、がんの治療をしない患者さんが増えてくる可能性がある。このため、将来を見据えた病院の整備を考えていかなければならぬが、10年後のがん診療がどうなるのかはなかなか想像することは難しい。
- ・ただし、がん治療において、国でまとめたがん登録のデータによると、本県では手術は確実に減少すること、放射線治療や薬物療法は増加することは分かっている。整備に当たっては、そのようなことを考えていかなければならない。
- ・一方、分からることは、高齢者、特に85歳以上の高齢の患者さんがだんだん増加していくが、そのような患者さんが入院するのかどうかというところ。おそらく、基本的には、在宅に移行する可能性が高い。しかし、現在、その辺りの対応は出来ていないので、かなり難しいが、その辺りの仕組みも一緒に作っていかないと個人的には考えている。
- ・県立病院の診療機能として、色々な話が出ていたが、宇都宮市でどれだけの医療が必要か、県立病院であるので全県をある程度網羅しなければならないということを踏まえ、どのような医療を提供しなければいけないかということを考えつつ、整備をしていかなければならないのではないかと考えている。
- ・そのようなことを考えると、がんセンターが専門病院のままではそのような対応はできないので、総合病院化ということで話が出ているのではないかと思っている。

(松本議長)

- ・次回の有識者会議は3月頃の予定である。まだ、もちろん確実に決まったものではないし、

これから色々なことを決めていかなくてはいけない過程であるため、各病院の先生方に御意見をいただいたところである。他に出席者の皆さま方から何かあるか。

(富塚メディカルクリニック 富塚構成員) ※チャットにて

- ・県立病院の再編に関して、経営的に公設民営化は考えていないのか。

(事務局)

- ・あり方検討有識者会議では、あらゆる可能性を否定することなく検討を進めるということで議論をしていただいているところ。公設民営化がどのような形態を意図されているのかは定かではないが、例えば公設した上で、指定管理というような運営方法をおっしゃっているものと想像すると、現時点においては、有識者会議等でそのような御意見等は頂戴していない状況である。

(宇都宮脳脊髄センター・シンフォニー病院 金構成員)

- ・医療の需要がどの分野が非常に必要かということは刻々と変わりつつあるとの認識を持っている。
- ・例えば、認知症の患者さんたちの緊急入院というところで非常に困ったりすることがあって、精神科の救急の領域というのは、ぜひこれは喫緊の課題として何とかしないと患者さんたちの行き場に困っており、その他にもそういう領域がたくさんあると思う。
- ・長期的な考えを持つのは難しいので、人口動態や2040年問題なんかも見据えながら、短期的に考えていく方が現実的ではないか。長期よりも短期で対応できる、絶えず変貌できるということが大事なのではないかと思う。
- ・以前、この会議で新潟県の県央基幹病院の先生をお招きしてお話を伺ったが、立派な病院をつくったが、医師が上手く集まらず機能していないとのことであった。人員配置の確保なしに、立派な病院の構想を策定しても決して上手くいかないのではないかと思う。

(松本議長)

- ・これまでの御意見を踏まえた上で、県として今後の進め方についてどのようにお考えか事務局からお願いしたい。

(事務局)

- ・先ほども御意見を頂戴したが、今後の医療需要等も見据えながら、県立病院の再整備についても進めていく必要があるであろうということは我々も十分に認識している。
- ・先ほどの議題の方で説明したような今後の動向等や本日先生方から頂戴した御意見等も踏まえながら対応を検討して参りたいと考えている。
- ・また、県立病院のあり方については、松本会長の方からもおっしゃっていたが、宇都宮医療圏の医療提供体制にも大きく関わるものと認識しているので、今後とも地域の御意見等を伺いながら丁寧に検討を進めて参りたい。

(松本議長)

- ・地域医療構想アドバイザーである、県医師会の小沼会長から御助言等を頂戴したい。

(小沼アドバイザー)

- ・宇都宮の地域医療構想調整会議は大変である、県立病院の検討も入ってきた。
- ・現在、県立病院の統合先として一番に上がっているNHO栃木医療センターのお話があつたので、興味深く伺っていた。
- ・自分は、県立病院のあり方検討有識者会議の議長を務めていて、NHO栃木医療センターの御意見を伺いたいと思っていた。まさに、お伺いした通りで、新しい病院が、どう県民のためになるのかというのが一番大事なことだと思う。統合させた方が予算的に効率的であるとか、そういうことではないのではないか。花婿のがんセンターも花嫁のNHO栃木医療センターも別にそれほど結婚したいと思っていない状況の中で、周りが統合しないといけないと言っているようである。
- ・皆が喜んで、統合した方が良いと納得できるような県立病院ができれば良いと思っているので、これからこの宇都宮の調整会議、それから県立病院のあり方検討有識者会議が並列して、進めて行ければ良いのではないかと思っている。
- ・一番県民のことを御存じである現場の先生方の御意見が一番大切であり、県の医師会長としては、やはり望むところは県民の幸せであるので、その辺を考えながら皆さまと一緒に進めて行こうと思う。

(松本議長)

- ・立場上、県の医師会長が良い仲人さんになっていただければ良いかなと思うので、一つよろしく願いしたい。

議題（5）その他【参考資料1】

（事務局：医療政策課） 参考資料1に基づき、情報提供。

《質問、意見等 特になし》

議事終了

以上